



医療法人華之会 箕面中央病院 だより

2025年 7月 VOL.3



— 当院の理念 — 安全・安心・信頼の医療

整形外科外来の紹介

蒸し暑い日が続くようになってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は当院の整形外科外来担当の先生方をご紹介します。

筋肉・骨・関節にかかわる整形外科的疾患は痛みや労作制限など日々の生活に多大な負の影響を与える疾患です。これらの症状に対しては、いろいろなサプリメントを試したり、市販の湿布薬で様子を見られている方も多いと思います。

ぜひ一度、当院の専門医の先生の外来を受診していただき、専門的なお話を聞いてみてはどうでしょうか。当院の先生方は、大学や所属病院で専門を追及されている方々です。ぜひ、身近で受診しやすい当院の整形外科を利用して、専門家の診察をうけていただいて、少しでも日々のADL(日常生活動作)改善に役立てていただけることを願っております。

(病院長 野崎 秀一)

月・火曜日 菅本 一臣(すがもと かずおみ)先生

私は3年前まで阪大病院で整形外科教授として診療とともに医師の教育に携わってきました。大阪府下などで現在勤務されている数百人に及ぶ大勢の先生方の指導していました。その経験を活かして来院される患者様の治療を行わせていただきたいと思います。最近はyoutube(菅本一臣チャンネル)でも様々な病気の説明をしていますのでそちらも是非ご覧ください。



第1・3・5木曜日 伊村 慶紀(いむら よしのり)先生

私は整形外科の骨軟部腫瘍という分野を専門にしています。骨軟部腫瘍は骨や筋肉や脂肪や神経といった骨軟部組織から発生する腫瘍の総称です。その多くは良性ですが、稀に悪性(悪性の骨軟部腫瘍のことを肉腫といいます)も存在します。骨軟部腫瘍はどの年代でも体のどの場所にも発生しますが、その専門家は非常に少なく、診断や治療に難渋することもしばしばあります。肉腫でも痛みやしびれといった症状を伴わない場合がほとんどで、大きなしこりはもちろんですが、小さくても徐々に大きくなっていくものや症状を伴うものは注意が必要です。小さなしこりでも放置せず、ぜひお気軽にご相談いただければと思います。よろしくお願いします。



水曜日 佐原 亘(さはら わたる)先生

2025年6月からお世話になっております、整形外科の佐原(さはら)と申します。肩、腰、膝などの痛みや骨粗鬆症など幅広く診ていますが、特に「肩」の病気やけがを専門にしています。レントゲンだけでなく、エコー(超音波)も使って、詳しく調べることができます。「五十肩」や「かたが上がらない」、「痛くて夜に眠れない」といったお悩みがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。お薬、リハビリ、注射、手術など、その方に合った治療と一緒に考えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



第2・4木曜日 廣瀬 毅人(ひろせ たけひと)先生

主に肩関節外科を専門として診療にあたっております。肩関節を愁訴として整形外科を受診される患者さんは非常に多い反面、病態を適切に診断できる医師は整形外科専門医であっても実は限られているのが現状です。若年から高齢まであらゆる世代の患者さんのニーズに対し、的確な診断のもと最善の治療方針を提案いたします。当院では超音波画像診断も可能であり、これを併用した正確な関節周囲への注射療法も可能です。手術に至らない保存治療の範囲であっても、治療効果を最大化することを目指しております。肩関節障害でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひお気軽にご相談ください。



金曜日 山下 修人(やました しゅうと)先生

現在は、大阪大学整形外科の大学院生として膝の生体力学を中心に研究しております。専門分野については、膝関節の特に靱帯や半月板など、スポーツ疾患をメインとしており関節鏡を用いた手術を行っておりますが、もちろん慢性的な膝の痛みや変形性膝関節症についても対応しています。関節注射やリハビリでの保存治療から、進行して歩行に支障をきたすような場合は手術を検討しますが、近年では変形性膝関節症の治療としては、人工関節だけでなく、アライメント(O脚やX脚)を矯正する骨切り(こつきり)術による治療もできるようになっています。患者様の状態や生活環境、希望に応じて最適な治療方法を一緒に考えていきたいと思っております。



土曜日 大槻 大(おおつき だい)先生

疼痛・姿勢・歩行・運動習慣の改善を目的として、理学療法士や義肢装具士と連携して診断と治療を行っております。また、健康寿命を延ばすためには骨粗鬆症を予防することも重要であり、骨密度の測定や必要に応じてガイドラインに基づいた治療を行っております。日常生活において少しでも不自由を感じられている方や、骨密度測定など長年されていない方は整形外科にご相談いただければと思います。よろしくお願いいたします。



「夏の皮膚トラブルを避けるために」

暑い夏は誰にとっても過酷な時期ですが、ご高齢の方の皮膚にとっては特に厳しい季節です。年齢を重ねると皮脂の分泌が少し、水分を保持する能力も低下するため、皮膚は乾燥しやすく、外部からの刺激に対して敏感になります。このような加齢による皮膚の変化に、夏の高温多湿な環境が加わることで、様々な皮膚トラブルが起こりやすくなります。夏の高齢者に最も多く見られるのが汗疹、いわゆるあせもです。多量の汗をかく事で汗の腺が詰まり、首回りや脇の下、胸部、背中などに赤いブツブツができ、かゆみや痛みを感じます。さらに、皮膚同士が擦れる部分に起こる間擦疹も夏場に多発します。脇の下や足の付け根などの汗が溜まったところで皮膚同士が擦れ合うことで炎症が起き、痒みやじゅくじゅくした皮疹を生じます。蚊やダニなどの虫刺されも夏の代表的なトラブルで、治癒も遅いため色素沈着を残すことがあります。これらの皮疹は掻き壊すと細菌感染を起こすことがあるため、早めに治すことが重要です。また、高温多湿な環境は白癬菌(いわゆる水虫菌)が繁殖しやすく、足の他、体にも白癬が起こりやすくなります。特に高齢者は爪白癬を併発することが多く、糖尿病などの基礎疾患がある場合は重症化しやすいため注意が必要です。これらのトラブルを予防するためには、まず清潔管理が重要です。ぬるめのお湯で短時間の入浴を心がけ、石鹸の泡で優しく洗浄した後は、汗が引くのを待って保湿剤を塗布します。汗をかいた際はこまめに清拭し、通気性の良い衣類を選ぶことで、皮膚への負担を軽減できます。家族や介護者は、毎日の皮膚の観察と適切なスキンケア用品の選択、皮膚科受診のタイミングの判断などでサポートすることが重要です。高齢者の皮膚トラブルは生活の質に大きく影響するため、予防を重視した生活を心がけ、快適な夏を過ごせるよう努めましょう。



皮膚科 松村 裕(まつむら ゆたか)先生



箕面中央病院 外来診療日

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	○	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○	/
整形外科	午前	○	○	○	○	○	○
皮膚科	午前	/	/	○	/	/	/